

TEST  
REPORT

## ホルガ 120 用 魚眼レンズ

神原 武昌

本誌 2002 年 10 月号で、「魚眼レンズに魅せられて」と題する特集が組まれた。そのなかで、編集部インタビューを受けて、ブッシュ大統領の出身地テキサス州オースティンにお住まいの、私の仕事仲間である Albert Edgar 氏を紹介した。

## 魚眼レンズの哲学を思い出させる

そのくだりを引用すると、「Edgar さんの魚眼レンズ活用の考え方には哲学があるという。それは、遠近法的な表現が強調されるので、通常の広角レンズでは内から外へ爆発するような無限の広がりを感じさせるのに対し、魚眼レンズの描写では主題を中心に囲い込むようなまとまりのある写真を撮ることができ、家庭的な雰囲気を感じやすいというわけだ。」私は、痛くこの魚眼レンズ哲学に感激し、共鳴した。

Edgar 氏は、フィルムスキャナー、フラットベッドスキャナー、ミニラボなどにライセンス搭載されている、著名な、フィルムの傷、ごみ消し、色調回復等の優れた技術商品である「Digital ICE」の発明者としても名の知られた人である。

従来、魚眼レンズの映像のファンタスティックなところにのみにとらわれて撮影してきた私であったが、氏から、魚眼レンズの哲学を学んで、人物写真にしる、風景写真にしる、作品を作る、心構えがすっかり、変わったと思う。中心の主題被写体を、まわりの副題で温かく囲みこむようにして作品を作るというように。

最近、「魚眼レンズで覗いた赤外の世界」という視点で撮影をしている。その成果の一部を「アトスペースモーター」という新進のフォトギャラリーで最近展示した。観に来ていただいた皆様にも、その「温



ホルガ 120GN に装着した魚眼レンズ  
 レンズ構成：3群3枚構成 画角：60° フィルター径：46mm  
 焦点距離：25.2mm 大きさ・重さ：68.5 × 35mm、118g  
 価格：¥7,245 発売：2005年9月21日 問合せ：エー・パワー  
 (04)2923-5234 <http://www.doctor-and.com/> / パワーショベル  
 (03)5428-5574 <http://www.superheadz.com/fisheye/>

かく主題を囲む」思想をご理解いただいたと思う。

## 手軽なアタッチメントタイプの魚眼レンズ

さて、パワーショベルとエー・パワーが共同開発した、中国製のカメラ HOLGA120 用の魚眼レンズで撮影する機会を得たので、その撮れ具合を報告したい。

HOLGA120 は、基本的には、120 フィルムを用いていわゆる 6 × 6 cm 判の写真が撮れるカメラである。赤窓で、フィルム送りを見るようになっており、レンズは、焦点距離 60mm、明るさは F8 固定である。フォーカシングは、いわゆるマニュアルのゾーンフォーカシングとなっている。ボディは、プラスチック製でたい



レンズ本体①と HOLGA 用固定チューブ②、POLGA 用固定チューブ③



魚眼のため画角が広くめだたないが、フードも内蔵している

へん軽量である。一方、この魚眼レンズは、オール金属とガラス製のレンズで構成されている。よって、ずっしりとした、たのもし重量感がある。カメラより重いようである。

このレンズの鏡胴には、ネジのつまみが設けられていて、この鏡胴をHOLGAカメラのレンズ部にかぶせるように装着し、このネジを締めると、魚眼レンズが、カメラにしっかりと、固定されるようになっている。大変単純な操作で済むので、カメラ好きの子供でも、容易に使うことができると思う。

魚眼レンズは、たいへん広角であるので、直射日光を拾いやすい。そのために、フードがレンズ鏡胴の先端に内蔵されていて、撮影時にはそれを伸ばして使う。親切な心使いである。



【中央大橋】

### おすすめの円周魚眼

さて作例をご覧ください。今年の10月は、天候不順で、青空の見えた日は少なかった。メーカーの指示どおりに、晴天の日に撮影しようと待ち構えていたが、なかなかチャンスが到来しなかったが、ある日、悪天候が、急に午後晴れだしたことがあり、仕事をほっぽりだして、隅田川にかかる中央大橋付近を、このときとばかり、勇んで、撮影して回った。カメラの機能と、魚眼レンズによる光量落ちを考慮して、コダックの高感度フィルム、ポートラ400VC



【行き交う船】

を使った。カラーネガフィルムは、相当ラチチュードが大きいので、高感度のカラーネガフィルムのご使用をおすすめしたい。

作例の「中央大橋」では、橋の中央にそびえる支柱を主題とした。バックのマンションが主題の支柱に、寄り添ってきており、空の雲も、散漫に散らないで、主題のほうに向かって集まってきて、絵柄が、散漫にならないから不思議である。上記の、魚眼レンズの哲学を思い出させる。このレンズは、周辺が適度にソフトフォーカスで、これがまた、主題の高解像度の部分を浮かび上がらせて、大変ムードのある、なにかしら、ゆかしい気持ちになる写真が撮れたと思う。

つぎに、作例の「行き交う船」は、貨物船と観光船が行き交う風景である。この場合は、主題の船のまわりに、高い建物などが無いので、目立たないが、水面のさざ波や、空の雲や青空の部分が、中央に、寄り添ってきていて、より濃密な映像になっている。通常の超広角レンズだと、はるか遠くに、映像のエレメントが散らばって、まとまりのつかない絵柄になっていたと思う。

市販の魚眼レンズの多くは、対角線魚眼レンズである。主題の魚眼レンズは、HOLGA120カメラに装着すると、たちどころに作例のような円周魚眼レンズ写真が撮れる、軽便で、たいへん経済効果の大きい、レンズアタッチメントといえる。おすすめのレンズである。

(かんばら たけまさ：日本写真会同友)